

令和元年度第2回 新庄市総合教育会議会議録

開催月日	令和2年2月20日(木)
開催場所	新庄市役所第1・2会議室
出席者	市長、高野博教育長、山村明德委員、阿部浩悦委員、斉藤浩昭委員、奥山京子委員
欠席者	なし
事務局	武田信也教育次長兼教育総務課長、高橋昭一学校教育課長、渡辺政紀社会教育課長 東海林主幹、伊藤主幹、小関教育総務主査、上村主事

議事の大要

午後3時48分より、市長のあいさつで、総合教育会議を開会する。

1. 開会

2. 市長あいさつ

3. 協議

義務教育学校成果等検証について

(市長) それでは、義務教育学校成果等検証について説明をお願いします。

(学校教育課長) 初めにこの検証の趣旨でございますが、義務教育学校萩野学園が開校し、5年が経過しようとしております。この度、成果等の検証を行いまして、令和3年度開校予定の義務教育学校明倫学園の教育課程や他の中学校区における小中一貫教育の取組について、方針を明確にして成果を生かしていきたいと考えております。

次に検証の方法については、大きく6点挙げさせていただきました。この6つの項目は総合的に検討しまして、成果検証を行ったことが基本となります。初めに、萩野学園の学校評価は令和元年度の学校評価を、萩野学園学校運営協議会と新庄市小中一貫教育推進協議会についてはこれまでのものすべてを、いじめ・不登校等調査については毎年行っているもので、国や市が行ったすべてについて、全国学力学習状況調査・全国標準学力検査(NRT)もこれまでのものを活用しております。成果等検証アンケートは、教職員、児童生徒、保護者をすべて対象として令和元年12月に行いました。最後に、教育相談、教職員及び児童生徒のヒアリングについては、主にここ1、2年のヒアリングを中心に校長の引き継ぎも含めまして、校長が児童生徒から聞き取っていることなどをこの検証の根拠としております。なお、現在の校長は、8年生、9年生一人一人と一対一の面談を行っておりますので、その内容も根拠とさせていただいております。検証委員のメンバーは、萩野学園校長、教頭3名、教務主任3名、PTO会長、副会長2名の10名、事務局として学校教育課4名、社会教育課1名となっております。

成果等の検証についての記載は、児童生徒、保護者、教職員へのアンケートだけではなく、検証結果のすべてを総合的に検討しまして、成果のあった項目に絞って記載しております。初めに「1年生から9年生まで毎日一緒に過ごすこと」の成果でございます。一つ目は自己肯定感が高くなっ

ています。これは全国学習状況調査の結果にも表れておりまして、「自分にはよいところがある」とプラスの評価をした児童生徒は全国平均より大きく上回っております。次に校長が生徒と個別面談をした際の話で、これは自信を持って言えると校長がおっしゃっていましたが、「萩野学園の生徒は自分の学校に誇りを持っている」ということでもございました。特に学校が楽しい理由については、「下の学年の子がかわいい」という上級生の意見が圧倒的であるとのことでした。あわせて学校評価では、児童生徒の自己評価で「学校が楽しい」という項目が非常に高くなっております。二つ目は「上の学年がやさしくなっている。下の学年は、上の学年にあこがれの気持ちをもっている。上の学年を目標としている。」です。これは、アンケートによりますと児童生徒、保護者、教職員すべてが最上位の項目となっております。特に教職員は85%がこの項目を最上位としております。表情がやわらかい等の回答については教職員の意見です。それから児童の感想、後期ブロックの内容を掲載しております。三つ目は「思いやりの心が育つ。児童生徒の人間関係がよい。」ということでもあります。アンケートの結果によりますと、児童生徒・保護者は上位から2番目の項目、教職員は上位から3番目の項目となりました。続いて2ページ目をご覧ください。「問題行動が減少している。」です。これについては人間関係が良好ですので、落ち着いて学校生活を送っております。一部、個別に配慮が必要な児童生徒のトラブルはあるものの、生徒指導上の大きな問題行動はほとんどございません。なお、いじめ件数については、いじめのとらえ方や認知の仕方が変わったことなどによって、現在は積極的に認知をしているため過去との比較は行っておりません。最後に「社会のルールを守る、安全に生活するなど、自律の心が育っている。」です。これについては、学校評価において児童生徒・教職員の全ブロックで共通して評価の高い項目となっております。なお、このアンケートの「1年生から9年生まで毎日一緒に過ごすこと」の項目について「よさは感じない」を選んだ割合は、児童生徒5%、保護者5%、教職員0%と低くなっております。大きな二つ目、主に「義務教育学校の特色について」の成果でもございます。1点目は「不登校が減少している。」ということです。特に、後期課程1年目となります7年生について、新規の不登校がほとんどないことが続いております。なお、後期には不登校の生徒はいますが、前期からの継続となっております。出現率は、特に同規模の学校と比べて非常に低くなっております。2点目は「学力が向上している」ということです。学力については、次第に全国平均を上回るようになってきております。特に後期課程は市内の各校と比べ伸びが大きくなっております。また、5・6年生で基礎の定着率が上昇しております。これは、教科担任制を取り入れている成果だと考えられます。同じように学力検査の経年変化でも、5・6年生の伸びが見られます。それから、授業のスタイルが全ブロック共通しておりますので、かつてあったような小中学校の授業での差異がございません。3つ目は「小学校の教科担任制、乗り入れ授業等で成果が出ている。」ということでもございます。これはアンケートによりますと、児童生徒と保護者は上位から3番目、教職員は最上位の項目で83%の教職員が挙げております。4点目、「児童生徒理解がより深まり、9年間寄り添って指導することができている。いろいろな教職員がかかわり、対応することができている。」ということです。アンケートでは、児童生徒・保護者は上位から3番目の項目、教職員は上位から2番目の項目となっております。小学校籍、中学校籍の教員が同じ方針で指導ができております。また、1つの職員室で日常的に情報共有ができておりますので、9年間継続しての指導ができております。結果的に児童生徒に一人一人に寄り添い、1人に対して多くの教職員がかかわることができております。資料3ページをご覧ください。「教育課程や学習環境で特色をいかすことができる。」ということもできております。各ブロックでの必要な行事や1年生から9年生までの合同の行事等が精査されております。行事も無理なく進

め、児童生徒の負担が少なくなっています。6点目は「異学年の行事・活動で力がついている。」という項目です。この項目については、児童生徒の84%が挙げております。縦割り掃除、運動会、芋煮会など様々な異学年交流があるのですが、これによって思いやりの心、社会性の力が育ってきております。これは児童生徒も自覚しております。7つ目、「4年生、7年生、9年生で早くリーダー性が育成されている。」という点でございます。これはアンケートによりますと、児童生徒の自己評価で上位から2番目の項目となっております。早い学年から児童会や生徒会に参加して、リーダー性が育っております。また、教職員の評価では、それぞれの行事でブロックにおける主体性が見られております。8つ目、「5・6年生の意識が高くなっている。」という点です。これは、後期ブロックと同じ日課表で生活しているということ、制服を着用して意識が高くなっているということ、後期ブロックの生徒の姿を見ながら生活していることで、学習への意識も高くなっているということが教職員の中から多く出ています。最後に「中1ギャップによる不適応がない。」ということですが、システムとして4-3-2制をとっておりますので、当然中1ギャップはございません。アンケートによりますと、保護者は上位から2番目の項目、教職員は上位から3番目の項目となっております。この義務教育学校の特色において「よさは感じない」を選んだ割合については、児童生徒2%、保護者2%、教職員0%で非常に少なくなっております。大きな三つ目、「主に地域や教職員に関すること」の成果でございます。初めにふるさとが好きになってきております。今年度の学力・学習状況調査によりますと、6年生、9年生対象では「今住んでいる地域の行事に参加している」「地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがある」でプラスの評価をした児童生徒は全国平均より大きく上回りました。また、学校評価では児童生徒の「新庄市や自分の住んでいる地域が好き」の項目が高い状況です。続いて4ページをご覧ください。特に8年生、9年生は、ふるさと学習への関心が高くなっており、課題意識をもって学習に励んでおります。次に「行事の姿がよい。地域での評判がよい。」となっております。後期ブロックの8年生、9年生の姿がよいとお褒めの言葉をいただいております。また、学校運営協議会でも、下の子は上の学年を見て学んでいることの良さ等が話題になっております。地域の方からいただいた意見では、総合的な学習の時間において8年生、9年生等が地域に出向いて学習を行っておりますが、萩野学園の生徒は非常に意識が高いという声もいただいております。次に「たくさんの教職員がいることで成果が出ている。」ということですが、これについてアンケートによると、児童生徒は最上位の項目でございました。教職員は上位から2番目の項目となっております。短時間勤務を含め7名の加配や教頭3名、教務主任3名の学校は市内では他にはみられない状況でございます。「教職員の一体感がある。教職員の資質・能力が高くなっている。」という点については、アンケートで教職員は「教職員の一体感」が上位から3番目の項目となっております。特に、小学校籍と中学校籍の教員同士が児童生徒の理解や学習指導について、お互い学び合い刺激を受けております。指導方法について互いの文化を知り指導していることが、問題行動の未然防止等につながっております。この地域、教職員に関する項目で「よさは感じない」と選んだ割合は、児童生徒7%、保護者10%、教職員2%でございました。以上、成果等の項目についてご説明させていただきましたが、資料に記載しています詳細な項目すべてについての説明は時間の関係上、省略させていただきましたので、後程、お読みいただければと思います。

次に課題についてです。大きくは5項目を挙げさせていただきました。1点目は、各ブロックの意義を確認し、それぞれの目指す姿を共有し、さらに伸ばしていく必要があると考えております。特に通常の中学校と比べた場合、義務教育学校の出口となる9年生のより高い姿を求めていきたい

と考えています。また、中期ブロックである6年生と7年生をより伸ばしていく必要も感じております。そのために、学習活動や行事等、ねらいや方法を吟味するなど教育課程を工夫していく必要があります。2つ目は、学校評価でたくましさがないという結果が見られました。これは良好な人間関係を築いている良さの中に、精神的にもっともっとたくましくという声がありました。この人間関係については、今後固定化していくことでマイナス面も懸念されます。そのために、中期ブロックから後期ブロックにかけて、児童生徒の意識をクラスの中だけではなく、より外に向けていき、校外や社会とかかわる力をより高めていく必要があると考えております。3点目は体力の向上について、体力・運動能力テストでは大きな落ち込みはございませんでした。ただ、5・6年生について、他の学校では休み時間が長くあるのですが、義務教育学校では休み時間がないことやバス通学で運動量が減っていることの影響が今後ないようにすることが必要だと考えております。そのため、運動の機会を増やすことを検討しております。運動施設環境が整っていること、7年生の水泳授業があるということ、6年生に部活動の機会があるということ、他の学校にない特色がございますので、これらを含めて指導の在り方について考えていく必要がございます。4点目として、アンケートの中で「地域や教職員に関すること」の項目で、保護者から「よさは感じない」が10%と高くなっておりました。詳細に申し上げますと、①地域とのつながり②ふるさと学習③保護者同士のつながり④教職員の一体感⑤豊富な教職員数等に対する項目についての良さを感じないということでありましたが、自由記述を見ますと「地域とのつながり」についてのコメントがありませんでした。他の項目についてはいろいろな良さを記載いただきましたが、これらについては後期ブロックの生徒が萩野地区や昭和地区に出向いて学習を行っておりますが、保護者は日中就業しているため、生徒が各地域で学習している姿を目にすることができないためではないかと考えております。また、学校が無くなっておりますので、子どもの姿を目にすることが少なくなっていることも考えられます。今後、地域とのつながりについて、さらにその取組みに工夫、指導していく必要があると考えております。課題の最後になりますが、義務教育学校の特色でもある教科教室の内容についてでございます。他の学校にはない教室である国語科、数学科、社会科、英語科の各教科教室について、生徒からは「集中する」「教科に合った空間で充実している」「他学年の学習内容がわかり次の学年の内容に興味をわく」などの意見をもらっています。今後、学力向上につながる教科教室の運用、環境整備について、さらなる充実を図っていく必要があると考えております。

説明不足の点もあったかとは思いますが、資料の内容についてご説明させていただきました。よろしく願いいたします。

(市長) ありがとうございます。説明では課題点がありませんように見受けられますが、中でも義務教育学校の今後の良さができていると感じます。それでは、ご出席の皆さんからご質問、ご意見をいただきと思います。

(山村委員) 小中一貫教育において小学校、中学校それぞれの学校文化を先生方の中でなかなかうまく受け入れられないということがどこのところにもあって、それが新庄市の場合はどうなのかということに心配していましたが、この資料を見るとすっかりうまくいっており、色々な情報から指導の在り方まで交換されているようで、大変良い学校運営をされていると思ったところです。もう一つは、小学校文化と中学校文化が異なる中での1ギャップの問題ですが、つまり、小学校でこんなに育ててきたのに中学校では後戻りしてしまい、始めから育てていかなければならないという問題

が多かった訳です。それが義務教育学校では、スムーズに流れていると。もちろん、先生方が小学校時代から子どもたちの様子を知っているので、そういう指導がうまくいっているものと思ったところですが、これらが理想どおりに進んでおり、しかも学力も向上していると。県では学力向上に向け、全国学力調査では全国平均以上という目標を掲げましたが、新庄市や最上地域の状況を見ると、その目標に届くのかどうか本当に心配な訳です。ところが萩野学園の様子を見るとそうではなく、かえって良い状況であると。このように萩野学園の成果が上がっていけば、明倫学園もうまく進めることができるのではないかと思ったところです。

ただ、若干心配だと思う点は、これから子どもたちが少なくなってくる訳で、その時、この方式が活かされるのか、活かすことができるのか。教員の数は多くても学力向上面についての指導、あるいは心の教育への指導、これを今後どのように考えていけばいいのか。学校教育課としては考え方をお持ちだとは思いますが、これらの点が現時点では心配される点です。あとは、子どもたちへの命の教育とか生き方については、一貫教育の良さはここにあると感じましたので、その点については心配してはいませんが、やはり、少人数になった時の学力向上にどう活かされていくのが課題だと感じたところです。

(齊藤委員) 私もこの資料の説明を受けた時に、色々な良い成果がいっぱい出てきていると感じたところです。子どもたちの目線から見た時に、1年生から9年生まで一緒に学習、生活している中で、小学校1年生の子どもたちから見れば、9年生の中学校3年生のお兄さん、お姉さんは普通であれば見えない存在であるはずですが、そこが非常に見えているということが、色々なところに良い影響ができているものと説明を受けて感じたところです。また、自己肯定感が高くなっていることや上の学年の生徒さんが優しくなっているといったところは、下の1年生がかわいいというようなお話もありましたので、やはり、上の学年の生徒さん方は下の子どもさん方の面倒を見ながら、目標にならなければならないという意識を持っているのではと感じたところです。そういったところが色んな所に波及していると感じました。また、先生方のところでも小学校の中に教科担任制が導入されている点については、非常にうらやましいと思います。かつ、先生方も非常にまとまりがあるということで、良いことづくめであると感じました。

ただ最後に気になったことが学区が一つになったことで、今まで小学校、中学校があった各地域での伝統文化といったところが、子どもたちに特色ある部分として伝わっているかどうか、その辺がこれからの課題というか、ふるさと学習も含めて、地域のおじいちゃん、おばあちゃんがどんな目で見ているかといったところが気になったところです。

(教育長) 私からは義務教育学校が「何となくいいんだ」というだけではなくて、数値的なことも踏まえて、こういう成果が見えてきているということが、今回少し整理できたことが良かったなと思います。学力や不登校、問題行動に関しても、数字的にこんなところに表れているということで、理解いただけるのではと思っており、この資料が次に生きてくるものと感じているところです。次に4ページにある教職員の一体感について、学校教育課長の説明に補足すると、分離型の小中一貫教育の場合、小学校の先生は小学校の今までのスタイルで丁寧に授業を進めていくのだけれども、中学校の先生は分厚い教科書を終わすためにすごいスピードで授業を進めていく。その違いはお互いに何となく理解はしているのだけれども、実際に一緒になって授業を見たり、話し合いをしたりすることで、中学校の先生が行っている猛スピードでの授業の進め方の理由や、小学校の先生が回

りくどいと思われるほど丁寧に授業を進めていることのお互い実感できる。先程、山村先生のお話の中で小学校文化、中学校文化という言葉がありましたが、言葉では理解しているものの、実際の現場で先生方はお互いによく分からない場合が多いため、お互いにその生の姿を実際に見るといふことでの一体感というのは非常にあるのではと感じています。そのため、指導法に関しても、その一体感を大切に小中一貫教育に必要な指導法が見えてくるのではないかという思いがあります。

ただ、今後のことを考えた場合、児童生徒数の減少が教職員数の減少につながっていった時に萩野学園の色々な加配についても終了することが予想されます。その場合に、乗り入れ授業や教科担任制などの実施が困難となる場合も考えられますので、それをどうカバーしていくのが課題であると考えます。児童生徒数、学級数が減少すれば、教職員数も減るということは制度上決まっていることであって、市単独で確保しなければ教員数が増えるということはない訳なので、その中でどうやっていくかということの研究していかなければ維持できなくなるということを考えていく必要があると思います。さらに、児童生徒数が減少していくことで、1学年1学級が9年間続くことによる人間関係の固定化への懸念が検証委員会でも話題となりました。このことは校長としても課題として捉えており、今後、児童生徒の目を外に向けさせていくための手立てが必要となります。

(奥山委員) 私は萩野学園の地区内に住んでいて、学園にも関わったことがあるのですが、合唱の様子などを見てみると、小さい頃から9年生の姿を見ているので、声の出し方とか歌い方など良いお手本を見て憧れるということと、逆に上の学年は小さい子たちから見られていると思うので頑張らなければという気持ちが育つのではと思いました。また、教頭先生や教務の先生方が、他の先生方の調整にあたっている時間があると思うのですが、そういうことで、いろいろな先生方が小中交流して授業をみてくださることができているものと思います。いろいろな先生方がみてくださることで、子どもの見方も担任だけの見方に固定されずに、色々な良さをみってくれるという点も子どもにとってはいいことであると思います。

ところが、最近は1クラスになっている学年もあるようで、今後、1クラスのまま1年から9年生までの固定化が進むのではないかと感じています。それで、先程、教育長からもありましたが、子どもたちの目を外に向けるため、高校でどういう風に子どもたちが伸びているのか、困っている点がないのかというのを知りたかったと思いました。

それから、4年生の段階でリーダー性を育てるため、運動会などでも活躍させているので、6年生でのリーダー性が不足する部分を補っているというような、色々そういう手立てを取ってくださっているのうまく成長していると思います。

あと、子供会などで小学生が地域で活動していたのが、中学生になると地域から離れてしまう感じがしていたのですが、それが1年生から9年生までいるということで地域と関わっている場面が多くあるのではと感じています。中高生になると地域との関わりが減少してしまうという状態を変えていくためにも良いことだと感じています。

(阿部委員) 今年の卒業式と入学式は新庄小、新庄中の母校に出席させてもらうので、自分が中1の時はどうだったかなあと思ったところです。自分は中1ギャップというのはあまり感じなかったのですが。あと、資料で6年生からの部活動とありますが、7、8、9年生と同じ部活動という意味ですか。

(学校教育課長) 冬期間時に体験するという形になります。

(阿部委員) 私は野球が好きでしたし、当時の中学校の担任の先生も野球部の部長でした。小学校の時の成績はそれほど良くも悪くもなかったのですが、中学校では成績も良くなって、担任の先生が野球部の部長ということもあり、それが励みになりました。萩野学園ではカリキュラム上、中1ギャップ自体がないにしても、励みになる先生方の教えというものが大事だと思います。

1年生から9年生までと一緒に学校生活を送るということの中では、少々問題行動を抱える子どもであっても、感覚的に1年生をかわいいと思って接するから自分がどうしなければならないかと考えるのではと思います。

この義務教育学校である萩野学園は、新庄市の教育に対する試金石だと思います。それが次の明倫学園につながれば一番いいのかなと思ってこの資料を読ませていただいたところです。学校教育課長からも詳しく説明いただいて、良かったなと思うこと以外ないです。

(市長) 委員の皆さんのご意見から出てきた中では、児童生徒数の減少による1年生から9年生の固定化が心配なんだと思います。独自に10人学級とか強制的に2クラスにしてしまうとかあると思います。その時は加配がないとできない訳ですがそういうのもありかと思います。別のクラスになったことによる精神的な違いというものが出てくるのだらうと思います。あと交流事業を社会的にPRして、例えば島根県の離島に渡ってそこの高校に行くとかがありました。義務教育なのでどこまでできるかは分かりませんが、素晴らしい自然環境の中で小中学校の生活をしてみませんかみたいな。

1学年1クラスの問題、加配の問題が心配であるとのことでした。奥山委員から高校生の方向性はどうなんだろうということもありました。高校生と語る会などを行って、中学生が高校生活ってどんな感じだろうと興味を持ってもらえたらと思います。もう大学、あるいは職業、就職も意識して、だから大学もそういう職業のための大学を選考しているという生の声を聞かせることによって、8年生、9年生がどこの高校を選ぶのかとか自主性が出てくるといいのかなと思います。市内すべての高校生を呼んで話を聞いて、どこの高校が生き生きしているか。これをやりたいと思って入学した子どもは時間がかかっても成し遂げていると思います。

最後に、私から皆さんにお聞きしたいことがあります。新庄小中一貫校の整備はいつ頃が適切なのかということをお伺いしたいと思います。

(阿部浩悦委員) 県立新庄病院の改築に伴う移転後の跡地をどうするのかということと、このままいけば高校再編では、次は新庄北高と新庄南高が一緒になるのかもしれない。そんな中でどっちの学校がどう移るのか、新しい場所に移るのかも関わってくるかも知れません。あと、いつ頃というのは、これから子どもの数も年々少なくなっていく中でどういう規模で行うのか、そして場所的な問題、県立病院の跡地利用と高校再編のタイミングが合致すればと思います。

(市長) ありがとうございます。それでは奥山委員、お願いします。

(奥山委員) 高校再編についてですか。

(市長) 今度は新庄中学区の一貫校をどこに、いつ頃までにいいのかという私見があればお聞かせ願いたいと思います。あともう一つ、八向中学区の問題についてもご意見をいただきたいです。

(奥山委員) 話は逸れますが、この前「ジモト大学」に参加して、それこそ異学年交流だったのですが、すごく楽しいなというか、異学年とか異年代の人と関わると楽しいなと思ったので。話は少し前に戻りますが、萩野学園のブラスバンド部と新庄北高のブラスバンド部が交流して一緒に演奏会をしたとかあったんですが、そういう中高の交流とかがあるとすごく刺激にもなるし、時間的なものは大変だとは思いますが、そういうことでお互いに刺激になるのかなと感じたところです。

(齊藤委員) やはり八向学区という部分で考えると、地区によって意見が独り歩きしている部分があるんですね、今のところ3案ということでご提示いただいておりますが、それも保護者の中ではなかなか浸透していない状況にあります。やはり今、学区としてやるとすれば、地域の保護者の意見を集約してまとめていく段階なのかなと思っていました。それが早いのか遅いのかは分かりませんが、そのスパンによって、新庄中学区の一貫校が具体的に進もうとした時に、八向地区の意見がまとまっていないからという部分で、いろいろ動きがまた違ってきたりするという部分があったりした場合どうなのかと。その辺で、地元の保護者の意見と、あるいは地域の皆さんの意見を集約するというか協議する場を作って話し合わなければならないのかなと思っていました。正直、地域の意見を聞けば、地元で学校が無くなってどうするんだという意見は非常に大きいのかなという感じはします。

(市長) 齊藤委員のご意見は最もだと思います。

(山村委員) ちょっと難しい問題だと思っているんですが、やはり新庄南高か新庄北高が高校再編で移る時期かなとは思っていたんですけど、ただ、これも見当が付かないと。この次、一貫校を設置するとすれば、老朽化度合から言えば新庄小学校かなと。

(市長) 新庄小学校は沼田小学校の2年か3年あとぐらいに建てられているので、大規模改修と耐震改修を行ったものの、それなりの年数が経過しています。先程、阿部委員が言ったように、それが子どもの減少のスピードとどれぐらいの規模と場所をどうするのかというのは、ある程度明示というか、アドバランを上げておかないと。いきなりだと難しいだろうけれども、教育委員会の方で協議というか、是非検討してもらいたいと。学校の整備はやらなければいけない。だとすると他の物に手を付けずにグッと抑えて、その分を学校に向けて準備していかなければならないだろうし、その辺なのかなと。高校再編で、新庄北高か南高が空いたところというのは理想的なところではあるのだけれど、もしかしたら、待ってられないかもしれない気がするんですね。やはりあれだけの小中一貫校になればそれだけの面積が必要になってくるし。その辺も教育委員会として考え方を示していく必要があるのかなと。一貫教育が今日の説明のとおりこれだけ成果があるということであれば、やらなくちゃいけない。先程、加配という問題もあったので、その辺は予算上の配分の仕方考えなくちゃいけないんだろうなと。子どもたちに学校生活が良かったなという環境を作っていくのが大人の責任なんだろうと思いますので、その部分は教育委員会として考えていただき

い。教育委員会の考え方としてやってきたこの小中一貫校の姿が出てきているので、是非議員の皆さんにもこの成果を教えてほしいと思います。

今日はいろいろとありがたい説明の後、皆さんからも心配していただいている児童生徒の減少をどうするか、それが続くとすれば、移住などの生徒を募集して補完し、子どもたちの環境を守るということを教えられたような気がいたします。

それでは、他になければこれで協議を閉じさせていただきたいと思います。

4. その他

特になし

5. 閉会

午後 5 時 13 分閉会する。